

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

| | | | | | | | |
|-------|---------------------------|------|-------|-------|-------------|--------|--------|
| 事務事業名 | 伊那人形芝居振興事業 | 会計 | 一般会計 | 事業No. | 803 | 施策順No. | 63-008 |
| | | 事業種別 | 政策・重点 | 予算科目 | 10-5-7-13-8 | | |
| 政策 | 6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり | | | 課等名 | 文化会館 | | |
| 施策 | 63 地域資産の保存継承 | | | 事業期間 | 開始 | S59 | 終了 |

1 事業の目的

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|-----------|--|--------|--------|--------|--------|--------|--|-------|----|---|----|----|
| 事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです | 対象 | ①今天人形座及び黒天人形座 ②人形座が保存されている地元中学生(竜峡中、高陵中) | | | | | | A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない | | | | | |
| | 誰、何に | 具体的な数値で表すと(対象指標) | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | | | | | | |
| | 意図 | ①座数 | | | | | | | 2 | | | | |
| | 対象をどう変えるか | ②地元中学生(竜峡中、高陵中)数 | | | | | | | 744 | | | | |
| | | ①人形浄瑠璃を上演できるようにする。②技術を学び継承する。 | | | | | | | | | | | |
| | 意図 | 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標) | 19年度実績 | 20年度実績 | 21年度実績 | 22年度目標 | 22年度実績 | 23年度目標 | 目標達成度 | | | | |
| | 対象をどう変えるか | ①上演可能な人形浄瑠璃数 | | | | | | 20 | 20 | 20 | B | | |
| | | ②保存伝承活動に取り組んでいる中学生数 | | | | | | 53 | 56 | 52 | | 50 | 49 |
| 22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】 | | 上演可能な人形浄瑠璃数は維持することができています。中学生の参加は微減しましたが、ほぼ目標を達成できました。 | | | | | | | | | | | |

2 手段(具体的な取り組み内容)

| | | | |
|--------------|---|--|----------------------------------|
| 事業の制度(仕組み)説明 | 今天人形座と黒天人形座が伝統人形浄瑠璃を保存伝承するために、それぞれの保存会が実施する研修活動や、後継者育成を目的とする地元中学校への指導活動を支援する。 | | |
| | 事業内容 | 名称 | 活動量・単位 |
| 22年度事業内容 | 1. 伊那人形芝居保存協議会の活動支援(伊那人形芝居保存協議会負担金の支出) (1)4座の共同事業として行う、義太夫・三味線・人形操りの研修事業 ※4座=今田、黒田、古田(箕輪町)、早稲田(阿南町) (2)伝承のための人形浄瑠璃台本の口語訳事業 2. 高陵中学校(黒天人形)、竜峡中学校(今天人形)への指導 | 1. 活動 (1)研修実施日数 (2)口語訳台本数 2. 指導回数 | 1 (1) 30日 (2) 1本 2. 60回 |
| 23年度実施計画 | 1. 伊那人形芝居保存協議会の活動支援(伊那人形芝居保存協議会負担金の支出) (1)4座の共同事業として行う、義太夫・三味線・人形操りの研修事業 ※4座=今田、黒田、古田(箕輪町)、早稲田(阿南町) H23は、国庫補助が受けられないために事業規模縮小(4年に一度補助) 2. 高陵中学校(黒天人形)、竜峡中学校(今天人形)への指導 3. 今天人形の館、黒天人形浄瑠璃伝承館の管理業務 地元の管理運営委員会へ指定管理(委託料の支出) | 1. 研修 (1)研修実施日数 2. 指導回数 3. 管理施設数 | 1 (1) 13日 2. 60回 3. 2施設 |

3 事業コスト

| | | | | | |
|-----|-------------|---------|---------|---------|-------------|
| 事業費 | 特定財源 | (千円) | | | 特定財源内訳、補足事項 |
| | | 22年度予算額 | 22年度決算額 | 23年度予算額 | |
| | 国庫支出金 | | | | |
| | 県支出金 | | | | |
| | 起債 | | | | |
| | その他 | | | | |
| | 一般財源 | 578 | 578 | 1,676 | |
| | 計(A) | 578 | 578 | 1,676 | |
| | 正規職員所要時間 | | 30 | | |
| | 臨時職員等所要時間 | | 48 | | |
| | 人件費計(B) | | 159 | | |
| | トータルコスト A+B | | 737 | | |

4 事業に対する市民や議会の意見

- ・中学生が今天人形、黒天人形の保存継承活動にかかわっていることは評価されるべきである。日常生活の関わりの中、学校教育の場を通じて継承されていることを広める必要がある。(H21推進委員会提言書)
- ・飯田の誇りである人形浄瑠璃などについて、市民の理解が少ないのではないかと、より一層の支援を願いたい。(H21推進委員会提言書)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

| | | | |
|--------------------|--------|------------------|----------------|
| 行財政改革の取組区分 | 【記載不要】 | 具体的な取組事項 | 【政策的事業のため記載不要】 |
| 21年度決算と比べての効果額(千円) | 【記載不要】 | 効果額説明(算出根拠)、特殊要因 | 【政策的事業のため記載不要】 |

6 前期4年間の取組評価(総括)

| 上位の施策への結びつき | 上位施策の目的 | 地域資産が保存・継承される | 施策の成果指標又はムトス指標 | 保存・継承されている地域資産の数 |
|---|----------|---|----------------|------------------|
| この事務事業は施策の目的達成にどのよう貢献しましたか | 4年間の振り返り | 黒田人形、今田人形の座員が、他の座と連携しながら技術を磨き、公演や、後継者への指導を行うことによって伝統人形芝居を保存・継承してきた。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 伝統人形浄瑠璃を飯田の資産として保存・継承するために、新たな演目の製作や上演機会の確保、後継者育成を重点的に支援すると共に、伝統人形劇が飯田で保存伝承されている意義について市民理解が広まるように取り組む必要がある。 | | |
| この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか | 4年間の振り返り | 古田人形(箕輪町)、早稲田人形(阿南町)と連携し、伊那人形芝居保存協議会として座員の技術向上のため外部講師を招いた研修を実施したほか、人形浄瑠璃の保存伝承に係る課題解決に向け情報交換を行ってきた。また、稽古、研修の成果を発表する場として、各座による定期公演のほか中学校クラブの交流会や伊那人形芝居保存協議会主催の合同公演を行い、伝統人形浄瑠璃への関心を高めた。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 後継者の育成は依然として課題であり、保存会による地域住民への普及啓発活動、小中学生を対象とした学習活動などを通じて後継者の確保を図る必要がある。 | | |
| コストを削減するためにどのような工夫をされましたか | 4年間の振り返り | 研修を合同で実施することで講師招聘の費用が軽減できた。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 伝統人形浄瑠璃は、飯田市の資産であると共に、国、県においても大切な文化財であり、国や県からの助成を確保することにより、市のコストは削減できる。 | | |
| 受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか | 4年間の振り返り | 受益者は保存会である。保存会は伝統人形浄瑠璃の保存伝承に要する経費(公演、研修、後継者育成に係る費用)の概ね6割を負担している。その他経費は、国・県の補助の他、飯田市からの負担金等で賄っているが、本事業で市が負担する経費は、伊那人形芝居保存協議会が実施する研修費と後継者育成費の一部であり、割合は全体経費の7%程度と必要最低限の負担である。また、保存会及び伊那人形芝居保存協議会は、会員によって主体的に運営されており、市の事務は国県との連絡等、必要最小限のものであり適切である。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 国県からの補助は4年に一回であり、補助を受けられない年は、活動が縮小するか保存会の負担が増額する。年度により事業規模変動や負担の増減が起こらないように安定的に一定程度の補助金を確保できるように支援する必要がある。 | | |
| 多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してきましたか | 4年間の振り返り | ①主体は今田人形及び黒田人形の保存会、人形座、伝承活動の指導を受ける中学生である。それぞれの保存会と人形座は、伊那人形芝居保存協議会に参加し、他の保存会と協力して研修事業や人形浄瑠璃台本の口語訳を実施するほか、中学生への指導を行っている。中学生は、後継者となるべく練習活動を行っている。 ②市は、伊那人形芝居保存協議会が行う研修と後継者育成(中学生指導)に対する支援を行っている。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 引き続き伊那人形芝居保存協議会における連携強化を支援するとともに、人形劇のまちを飯田を支える多様な主体との連携を強化することにより、取組の幅が広がるよう支援する。 | | |
| 全体を通じて | 4年間の振り返り | 保存会・人形座の熱意、地域住民の支援により、伝統人形浄瑠璃が保存・継承されてきた。こうした伊那人形芝居の取り組みに関心を寄せたポーラ文化振興財団により記録映画の撮影とその上映会が行われるなど、その活動は高く評価されている。また、今田・黒田という二つの人形浄瑠璃が持つ技術は世界に誇るものであり、人形浄瑠璃は海外での関心が高く、ミズーリ大学の学生が飯田に滞在し今田人形座から人形浄瑠璃を学ぶなど、国際的な交流にも発展している。 | | |
| | 後期に向けた課題 | 引き続き保存・継承していくために、伝統人形浄瑠璃を地域の貴重な文化資産として市民が広く認識できるように支援すると共に、人形劇に関わる他団体等との連携による新たな活動の展開などを支援していく必要がある。特に、伝統人形浄瑠璃が今に伝えられ、生き活きと演じられている飯田の歴史的、文化的な土壌や魅力を総合的に発信することにより、観光資源としての活用など、資源を資産として活かす取組みが課題となっている。なお、平成23年度から人形浄瑠璃施設の管理業務を本事業に統合する。 | | |

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

| | | | | | |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|
| 事務事業を統合・分割する必要はありますか | ある | 対象や意図を修正する必要はありますか | ない | 成果指標や指標値を修正する必要はありますか | ある |
|----------------------|----|--------------------|----|-----------------------|----|

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

| | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 完了 | <input type="checkbox"/> 拡大 | <input type="checkbox"/> 縮小 | <input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合 | <input type="checkbox"/> 休止廃止 | <input type="checkbox"/> 現状維持 | <input type="checkbox"/> 目的見直し | <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--|